

あいさつ週間で活用する

(小学校低学年)

【活用した資料】

- 小学校版「心あかるく」 p.12~p.13 第一章 「親しき仲にも礼儀あり」
- 小学校版「心あかるく」 p.14~p.15 第一章 「ありがとう」 荘司 武

【学習指導要領に示されている道徳の内容】

- 2-1(1)「気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。」

○ 「あいさつ週間」の事前指導として。

「あいさつ週間」の事前指導で、あいさつのよさに気付かせるとともに、お互いに気持ちのよい言葉遣いや動作などを心掛けていくためにきっかけとして、「心あかるく」第一章 p.12「親しき仲にも礼儀あり」の言葉を活用しました。

朝の会のときに、「礼儀という言葉を知っていますか。礼儀とはどのようなものでしょうか。」とたずねてみると、児童は「あいさつができること。」「言葉遣いがていねいなこと。」など、礼儀正しいと思うことを発表しました。次に「礼儀正しくする相手はだれですか。」とたずねてみると、「校長先生。」「担任の先生。」「家の近所の人。」など身近な大人が挙げられました。そこで「家族や仲のよい人には、礼儀正しくすることは必要でしょうか。」とたずねてみると、親しい人には、あまり丁寧な言葉遣いや態度は必要ないのではないかという意見も出されました。

ここで、「心あかるく」p.12~p.13を開き、「親しき仲にも礼儀あり」の言葉を音読しました。「ありがとう」「ごめんなさい」「おねがいします」の三つの言葉を親しい人との間で交わす場面を想像させ、礼儀を大切にすることで、お互いに気持ちよく過ごすことができるということに気付かせました。児童は、気持ちのよいあいさつをしようという意欲をもって、「あいさつ週間」に臨むことができました。

○ 事後指導では、体験を通して学んだことを発表し合うために…。

「あいさつ週間」を終えたあとに、あいさつのよさや礼儀の大切さについて振り返らせました。あいさつをしたとき、自分はどのような気持ちだったか、相手はどのような様子だったのかを見つめ直させて、これからもあいさつを大切にしていこうとする気持ちをもたせました。

また、「心あかるく」第一章 p.14~p.15「ありがとう」をみんなで読み、「ありがとう」という言葉が、言われる側にとっても言う側にとっても気持ちのよい言葉であることに気付かせました。そして、あらためて、お互いに気持ちよく過ごしていくために、親しい仲であっても、礼儀正しく接していこうとする意欲を育ませました。